

第 10 回科学技術予測調査にみる人工知能・情報技術が切り拓く未来

文部科学省 科学技術・学術政策研究所 科学技術予測センター

小柴 等

要旨

文部科学省科学技術・学術政策研究所では、第 5 期科学技術基本計画にさきがけて第 10 回科学技術予測調査を実施し、得られた要素からありえる未来の社会像（シナリオ）を描き出した。ここでは、人工知能をはじめとする情報技術があらゆる研究分野のキードライバーとなり、社会を変革していく姿を描いている。特に我が国が国際社会でリーダーシップを取っていくためのシナリオでは、「ものづくり」など我が国の強みを生かして生活データを収集、蓄積、及び分析することで、様々なサービスの改善や共創へとつなげていく姿を描いている。これらは基本計画や平成 28 年版科学技術白書でいう「Society5.0」に相当する。

さらに、情報学がメタサイエンスとして技術・社会の垣根も越えている現状を踏まえ、このシナリオの深掘り・肉付けを念頭に、研究と社会実装とを両立する有識者を招いたミニワークショップを開催した。ここでは、研究、人材育成・教育、社会実装の観点から議論を進め、研究や倫理問題にかかわる現状と今後の方向性を確認するとともに、研究者がより現場に出ていく研究パラダイムのシフト、現存する情報技術を十分に活用するための柔軟な社会制度へのシフト、技術を活用・共創するためのコンピューターショナル・シンキングの拡充、などの必要性が指摘・確認された。

A Future Vision Realized by ICT/AI through S&T Foresight

Hitoshi KOSHIBA, Science and Technology Foresight Centre, National Institute of Science and Technology Policy (NISTEP), MEXT

ABSTRACT

In 2015, NISTEP drew some future vision at “10th S&T Foresight Survey”, and publish some reports. In addition, these reports suggests that, ICT especially AI (Artificial Intelligence) are key-driver for future society.

In this paper, we report summary of NISTEP 10th S&T Foresight Survey, especially ICT/AI topics. Moreover, we report some results of discussion with experts. These experts suggest that as follows; we have to be aware of a paradigm shift of research approach (active research), we have to construct a flexible social legal system structure, we have to get accustomed to a computational thinking, and more.